

人権のこと、考えてみませんか

意識調査の結果が問いかけもの

近ごろ「人と人、地域と地域のきずなが大切だ」ということを、誰かが話しているのを聞いたり、あなた自身が感じたりしたことはないでしょうか。少子高齢化が進み、経済不安が続く中、東日本大震災などの大きな自然災害に見舞われた日本で、今、きずなを大切にしたいと思う人が増えているのではないかと思います。

では、きずなを築くためにはどうすればよいのでしょうか。視点を変え視界を広げることで、今まで見えなかったことが見えてくることがあります。さまざまな差別の中の一つ、部落差別を取り上げ、知らず知らずのうちに人を傷つけていないか、改めて考えてみませんか。

■市民の間に根強くはびこる 部落差別の現実

今日もなお部落差別の現実はあるのでしょうか。

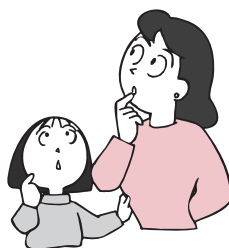
同和問題をめぐる議論や、その解決をめざす取り組みのスタートラインになるのがこの点です。思い込みや推測ではなく、皆さんが示した率直なデータを通じてそのことを確かめたいと思います。

まず、部落差別の現実があるのなのか。この問いに対して2009年（平成21年）の調査は、差別が「明確に存在する」ことを示しています。

子どもの結婚希望相手が同和地区出身者だった場合の態度、結婚に際して同和地区出身者かどうかの身元調査をすることについての意見、同和地区周辺の住宅の購入を避けようとする意識、そして同和地区の人々に対する誤解や偏見によるうわさの氾濫など

ど、部落差別の現実が私たちの日常生活の中でまだまだ生きつづけている状況が明らかになっています。

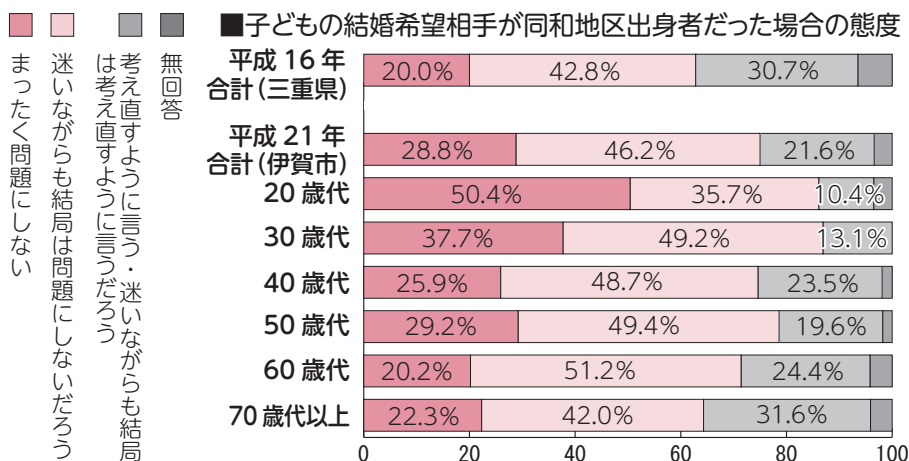
もちろん、こうした差別の実態はかつてのままの姿で残されているものではなく、年齢階層別にデータを見ると、若い世代において状況が好転していることが現れています。



「子どもの結婚希望相手が同和地区出身者だった場合の態度」については下のグラフのとおりです。

市で2009年（平成21年）に行った調査の年代別の数値を見てみると、2004年（平成16年）の県民意識調査の結果に比べ、ほとんどの年代で、よい状況を示していることがわかります。

■子どもの結婚希望相手が同和地区出身者だった場合の態度



■市民の態度や行動に 影響を与えているもの

部落差別の解消は、学校や行政などが行う同和教育・人権啓発の取り組みだけでなく、市民の皆さんによる差別撤廃に向けた態度や行動がなければ実現しません。

ではこうした態度や行動は、どのような取り組みや考え方と関連しているのでしょうか。

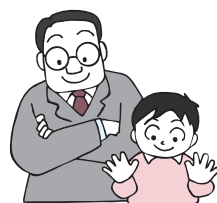
同じ調査の結果から、人権施策と態度や行動の相関関係（結びつき）を見ると、人権問題に関する地区別懇談会や講演会、研修会に参加した人は、差別解消への意識が高く、態度に表れることが、明確に読み取れます。また、講演会や研修会への参加回数が増えれば増えるほど、差別解消への意識が高くなり、差別の解消へと態度が変化する傾向にあります。

地区別懇談会や講演会、研修会のほか、市民を対象とした講座や、職場での研修が、差別意識の解消に大きな成果を上げていることがわかります。

教育や研修活動は、効果をすぐに測定することが難しいといわれていますが、こうした取り組みは有効であり、これに参加した市民の皆さんに対して、効果的な差別解消の力を与える場になっているのです。

さらに、調査では、「周囲に同和教育に熱心に取り組んでいる人がいる」と答えた人は、そうではない人に比べ、同和教育に対する態度や行動が、より問題の解決に向かっていくこともわかりました。

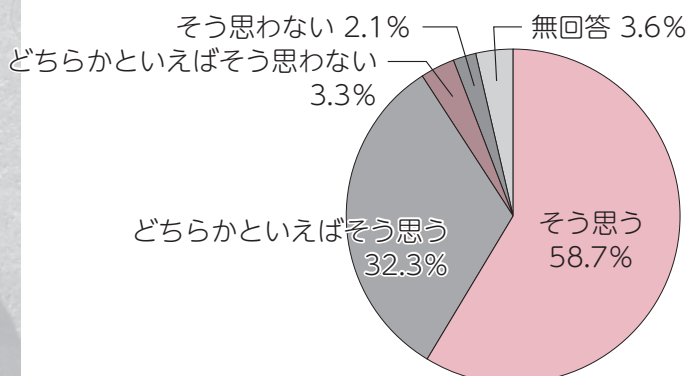
■人権問題に関わる意識について



身近にある差別について、市民の皆さんはどう考えているのでしょうか。下のグラフは、差別に対する考え方を表しています。

差別は人間として最も恥ずべき行為の一つであるとの意見について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると91%にもなっており、「差別はいけなしい」という認識は極めて高いことがわかります。

■差別は人間として最も恥ずべき行為の一つであるとの意見について



区別懇談会や講演会など、差別解消への研修会がたくさんありますので、ぜひご参加いただきたいと思います。

なお、障がい者問題や外国人問題など、ほかの人権課題についても調査していますが、これらと同様の結果を示しています。

調査結果をまとめたダイジェスト版も作成していますので、詳しくはお問い合わせください。

■まずは、知ることから

学校における同和教育だけでなく、私たちの周りには人権問題に関する地

【問い合わせ】

人権政策・男女共同参画課
☎ 22・9631 FAX 22・9649

